

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

岐阜県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	高等学校推進	県下全高等学校	実施30校
2	大学・短大・専門学校推進	大学・短大・専門学校	

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	近隣企業からの送迎協力	献血実施会場周辺の企業・団体	1稼働平均献血者の増
2	新規事業所の開拓	献血協力者30名を望める企業・団体	数社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	前年度から1年間未献血者	応諾率10%
2	事業所(企業・団体)の複数回実施	年1回実施で大口協力事業所	数カ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時の推進	400mL献血基準を満たしている献血者	基準を満たした方、全員の快諾

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	職専免	県、市町村での成分献血者	月2回の依頼
2	電話による依頼	該当者	必要人数
3	はがきによる依頼	誕生日等、献血間隔に応じて	月3, 500名

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

静岡県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	小・中・高生対象の献血勉強会	小学生・中学生・高校生	参加者 30人
2	JRCメンバーへの献血勉強会	小学生・中学生	参加者 300人
3	学生ボランティア活動の充実	高校生・大学生	ボランティア 80人確保

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血会場周辺企業・新規参入企業	30社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者800人
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	応諾者10,000人
3	実施会場(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	10会場

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付・問診・比重時に400mL献血の推進	200mL希望献血希望者	
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	応諾者10,000人
3	女性献血協力者への推進	400mL献血可能者	

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	月曜日から金曜日の献血者確保	成分献血可能者	平日の成分献血者を1日平均105名確保

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

愛知県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	学生献血連盟によるキャンペーン	18~22歳の若者	参加600人以上 10~20代献血者構成比35%以上
2	中部学生リーダー研修会	短大生・大学生	2回以上開催 参加者数 100人以上
3	若年者献血セミナー	16~30代の若年者	2回以上開催 参加者数 100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血団体・企業の確保	献血未実施企業・団体。	60社新規、休眠団体の実施。
2	優良企業・団体の年複数回実施。	1稼働90単位以上の企業・団体	12企業・団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	協力者数 500人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	協力者数 2,000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	応諾者数 10,000人以上
2	高校献血における400mL献血受入	400mL献血可能者	3校
3	受付時における更なる推進	400mL献血可能者	400mL比率85.2%

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

三重県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	文化祭での啓発パネル展示	高校・短大・大学	10校以上
2	若年層献血キャンペーン	18～22歳の若者	参加1,000人以上、期間中10～20代の献血者構成比35%以上
3	セミナー開催	18～22歳の若者	3回開催、参加150名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	20団体新規登録
2	緊急要請可能な団体の確保	血液型別指定献血が可能な優良企業・団体	10団体
3	成分献血協力団体の確保	既献血団体及び企業	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールクラブ会員の募集	年に1～2回しか行かない企業・大学でパンフレット配布。固定施設周辺の年間1～2回献血者に対して(1,000名)郵送でパンフレット配布。研修会での説明会	新規会員700名募集
2	電話による400mL献血の募集	献血依頼応諾者(一定見献血者含む)	応諾者(実協力者)900名以上
3	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者(実協力者)150名以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	大企業・官公庁での通勤時の呼びかけ	全社員、全職員	10団体
2	献血協力団体・献血推進団体への複数回協力依頼	企業、団体に年3回実施	献血バス(400mLのみ)は採血間隔、年間採血量を考慮して策定
3	電話による依頼	電話依頼OKの方のみに不足時に依頼(400mLのみ)	80人/月を目標に年間900名確保
4	400mL高校献血実施	400mL献血可能者	2校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	次回の予約依頼	血小板成分献血者	3人/日を目標に年間900人を確保する。
2	電話による依頼	電話依頼OKの方のみ血小板献血依頼	200人/月を目標に年間2400人を確保する。
3	成分献血登録者の確保	条件を満たす全献血者	20人/月を目標に年間240人を確保する。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

滋賀県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)		平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
2	セミナー開催	高校・短大・大学生	5回開催 参加500人
3	若年者献血キャンペーン	18～22歳の若者	参加500人以上、期間中の10～20代献血者構成比50%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規・休眠中献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	10社新規登録
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	母体・ルーム周辺の小規模企業・事業所	動員協力団体20社
3	成分献血協力団体・回数の拡大	新規及び既献血団体	20社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがき等による献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	20ヵ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者・献血会場	全献血会場に設置
2	はがき等による依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時期等の精査	年2回以上実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	3校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	電話及びハガキ等による献血依頼	固定施設の既血小板成分献血者を含む全献血者	2人/日を目標に年間1,000人を確保する。
2	定期及び緊急時の協力団体の拡大	母体及び湖北ルーム近隣の事業所等	各10ヶ所
3	次回の予約推進	固定施設の既血小板成分献血者	2人/日を目標に年間1,000人を確保する。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

京都府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	血液管理センター見学	京都府学生献血推進協議会メンバー及び看護学校生	参加約80人
2	若年者対象献血セミナー開催	小学生高学年～高校生対象	8月開催 参加約140人
3	18歳からの献血キャンペーン	高校3年生を対象に1月から3月に400mL献血と血小板献血を依頼	献血協力者約1,000人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保(移動)	京都市内各献血会場周辺企業における参加協力の推進	市内会場約200会場において推進
2	緊急要請可能な団体の確保(移動)	通常の献血協力に加え、血液不足時に型別での協力可能な団体	5団体確保
3	定期的な献血協力団体の確保(ルーム)	献血ルーム周辺の企業	駅前ルーム近辺で30社以上確保
4	緊急要請可能な団体の確保(ルーム)	移動採血が配車でできなくなったルーム近辺企業	駅前ルーム近辺で20社以上確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	推進用ポスター・リーフレットの作製と配布	一般献血者(各ルームと移動採血車)対象	年間新規登録者数2,000人以上を目標とする。 170人以上/毎月 200人以上/キャンペーン月間
2	リーフレット郵送による新規登録者募集	年1回献血協力者(約4,500人)対象	
3	新規登録会キャンペーン月間を設けて新規登録者を募集する(キャンペーン月間は移動先が大学などへ集中する10月)	大学など比較的若年層が集まる移動採血現場および各ルームに来所する一般献血者	
4	健康相談事業(健康教室)の実施 各教室定員20名×8回(重複参加可)	複数回献血クラブ全会員対象	健康相談事業(健康教室)の実施。 各教室定員20名×8回(重複参加可)以上
5	講演会の実施(健康に関する演題で)	複数回献血クラブ全会員対象	年間最低1回以上実施する。
6	情報提供メールの送付	複数回献血クラブ全会員対象	定期情報メール:原則毎月1回以上
7	献血依頼メールの送付	複数回献血クラブ全会員対象	前回採血から一定期間未献血者
8	ワンモア献血キャンペーン	ルーム及び街頭献血での400mL献血者(献血ルーム)	応諾者数(実献血者数)2,500人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	400mL献血限定取組の実施(福知山C)	了解を得られた献血団体	400mL献血限定取組160稼動以上(全稼動の70%以上)
2	200mL献血者数の上限を設ける(説明資料を献血者に配布)(福知山C)	400mL献血限定にできない献血団体	1稼動あたり200mL献血5人以下
3	はがきによる献血依頼(ルーム)	前回献血から6か月間未献血の400mL献血者	応諾者数(実献血者数)1,300人
4	新規献血協力団体の開拓	新規の団体については、当初から400mL献血限定受付にて依頼する。	3から5団体
5	高校献血における400mL献血限定実施	400mL献血可能者	2校
6	街頭献血等における400mL献血限定取組の実施	400mL献血可能者	土、日曜日、祝日の街頭献血等すべての配車を400mL献血限定にて実施
7	市町村、役所、役場における400mL献血実施	市町職員には400mL献血限定を依頼。ただし、一般市民、町民には400mL献血を推進するが400mL献血限定受付とはしない。	すべての市町村に400mL献血限定受付の理解を求める。
8	400mL献血実施推進用資材の作成	400mL献血可能者	2,000枚作成、配布

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	献血リターンズキャンペーン	過去1年間未献血者	例年献血者の減少する3月に献血ルームへの協力者約250人
2	月、火、水曜日 血小板献血キャンペーン	血小板成分献血者	血小板成分献血者全体に占める月、火、水曜日の血小板成分献血者の割合43%を45%にする。
3	献血会場および団体の見直し	町村合併後の新規開拓と従来の会場および団体の見直し	1台あたり400mL献血51人以上
4	京都市内地域献血の見直し	少子高齢化の進む京都市内地域献血において、より効率的な採血ができるよう見直す。	採血見込み人数によっては1日稼動を半日稼動とする。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

大阪府赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数34,000人以上
2	献血おもしろゼミナール開催	小学生	8回開催 参加2,000人
3	セミナー開催	高校生	2回開催 参加60人
4	献血イベント(学園祭を含む)	18～22歳の献血可能者	来場者80,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業・団体	260社新規登録
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	企業・団体	動員協力団体10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)200人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	30カ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記③に含まれる
3	キャンペーンの実施	400mL献血可能者	応諾者数10,000人以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがき、封書及びEメールで依頼	血小板献血経験者	発送数:10,000枚 応諾者数:10,000人以上
2	受付、採血、休憩中に血小板可能者に推進する。	血小板献血経験者	応諾者数:200人以上

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

兵庫県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	18歳の献血キャンペーン	県下の県立高等学校3年生	高校生の18歳、400mL献血者数800人(平成18年暦年625人)
2	友だち紹介(カード)キャンペーン	県下の大学・短大・専門学生を主とする	応諾者600人(平成18年度予定約400名)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	ミント神戸献血ルーム付近の周辺企業・団体	30団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	『プラス1献血クラブ-HYOGO-』(メールによる献血依頼等)の推進	若年層中心	会員5,000名
2	栄養相談事業の実施	複数回献血者を中心として	
3	友だち紹介(カード)キャンペーン	県下の大学・短大・専門学生を主とする	応諾者600人(平成18年度予定約400名)

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがき、電話による献血要請	前回400mL献血者	応諾者数10,000人
2	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に設置
3	18歳の献血キャンペーン	県下の県立高等学校3年生	高校生の18歳、400mL献血者数800人(平成18年暦年625人)

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	献血ルームにおけるサービスの充実	献血ルーム来所者	各種サービスの検討、実施

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

奈良県赤十字赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	セミナー開催	高等学校・専門学校・短大・大学	5回開催 参加5,000人
2	施設見学、体験学習	小・中学生	10回開催 参加400人
3	はがきによる献血依頼	18～29歳の前回400mL献血者及び可能者	協力者 15,000人以上
4	学生献血推進協議会による若年者献血キャンペーン	18～22歳の若者	協力者 1,000人以上、10・20代献血者構成比37%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	24社新規登録
2	緊急要請可能な待機方団体の確保	規模縮小等により献血実施できなくなった企業・団体	動員協力団体6社
3	成分協力団体の拡大	既献血団体及び少人数の企業・団体	12社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から1年以上未献血者	応諾者数(実協力者数)3,500人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	12ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時期等の精査	年3回以上実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	高校献血における400mL献血受入	400mL献血可能者	21校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	予約制の推進	血小板成分献血者	1日10人を目標に年間3,600人以上
2	電話、はがきによる献血依頼	前回血小板成分献血者	上記に含まれる
3	メール会員による献血依頼	前回血小板成分献血者	上記に含まれる

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

和歌山県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	学生実行委員会主催キャンペーン	大学生・専門学校生と一般献血者	協力者数300人以上
2	セミナー開催	大学生・専門学校生	5回開催・参加500人
3	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数4,800人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血未実施企業	10社新規登録
2	緊急要請可能な団体の確保	既献血団体で追加の協力	動員協力団体10社
3	成分献血協力団体の拡大	既献血団体で追加の協力	10社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請の推進	複数回献血クラブ会員(メール会員)	月一回以上実施(メール配信多くする)
2	はがきによる献血依頼	前回献血より一定期間未献血者	県内全域・全献血者を対象に依頼

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	献血車での全血献血希望者	全献血会場に設置
2	推進用パンフレットの作成	企業・団体・献血会場	事前広報・推進による増加対策
3	はがきによる依頼	400mL献血可能者(休眠者含む)	県内全域・全献血者を対象に依頼

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	成分献血協力団体拡大	官公庁及び既献血団体(近隣事業所)	10社増加
2	電話による献血依頼	前回血小板成分献血者	週2人を目標に年間100人
3	再来献血推進	次回血小板成分献血可能者	週2人を目標に年間100人

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

鳥取県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	研修、セミナーの開催	高校生、大学生	5回開催。参加300人
2	若年層献血キャンペーン	18～26歳の若者	10回以上。参加1,000人以上
3	はがきによる献血依頼	18～29歳の成分献血、400mL献血可能者	協力者数10,000人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	緊急要請可能な企業の確保	血液センター近隣の企業、団体	動員協力企業30社
2	緊急時の献血協力団体の確保	規模縮小等により献血実施できなくなった企業	協力企業30社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メール、はがきによる献血要請・イベント案内	複数回献血クラブ会員	協力者1,500人以上
2	街頭献血におけるはがきによる依頼	前回献血から一定期間未献血者	協力者3,000人以上
3	企業への年間回数の増加	年1回及び2回実施企業	10ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	③複数回献血者確保対策に含まれる。
2	不足型別推進用資材の作成	全血献血希望者	全血献血会場に設置
3	55歳以上の成分献血希望者の全血献血への移行	55歳以上の成分献血希望者	300人

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	電話による献血依頼	既血小板成分献血者	3人/日を目標に800人を確保する。
2	午前中の献血者確保(献血者へのサービスの拡大)	全献血者	午前中の採血人数8人を15人に増加する。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

島根県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者数5,000人
2	専門学校 短大 大学へ学内献血の実施	専門学校・短大・大学生	学内献血を2回以上実施する。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血会場周辺企業	37社新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数献血クラブ会員	献血者数200人以上
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	献血者数500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	400mL献血のみの献血会場	全血献血希望者	街頭 学内献血で実施する。25回以上
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる。
3	400mL比率の高い事業所の献血実施	年2~3回実施事業所	採血間隔 採血量を考慮した献血日程の策定

⑤その他の具体的対策(①~④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	血小板成分献血者確保	血小板成分献血者	登録者200人募集をする。
2	電話 はがきによる献血依頼	既血小板成分成分者	献血者3,500人を確保する。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

岡山県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数
2	学生ボランティアの研修会開催	専門学校生、短大・大学生	2回開催 参加100人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業	10社新規登録
2	送迎可能な協力団体の確保	血液不足時に献血に協力いただける企業・専門学校等	動員協力団体5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)
2	はがきによる献血依頼	街頭献血等、一般の方が参加できる会場での過去2回分の献血経験者	応諾者数(実協力者数)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施企業および数年間献血依頼をおこなっていない企業	10ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	ライオンズクラブ等への不足時の献血協力依頼	型別不足時等に献血に協力していただける県下各ライオンズクラブ等のメンバー	40団体

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

広島県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	大学献血推進協議会セミナー	大学生・短大生・専門学校生	2回開催、参加100人
2	集まろうDAY	大学生・短大生・専門学校生	5回開催、参加50人
3	学生献血推進強化	大学生・短大生・専門学校生	学内献血400mL率を80%

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	新規事業所	10社増加
2	成分献血協力団体の確保	新規団体	5社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者50人以上(現在登録者約320人)
2	はがきによる献血要請	前回400mL・血小板成分献血者	5,000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	前回400mL献血者	4,000人(上記③に含まれる)
2	400mL献血の推進	400mL可能者の内200mL希望者	希望者全員に推進する

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

山口県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	セミナーの開催	短期大学生・大学生	2回開催 参加100名
2	DMを活用しダイレクトに依頼する	18～29歳で400mL献血可能者	2回以上、キャンペーンにあわせて実施
3	大学献血の発展と拡張	18～22歳	27回実施中であり、新規を1校以上追加
4	広報媒体を利用した啓発・啓蒙	16～29歳	2回以上、キャンペーンにあわせて実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体確保	未実施企業及び、献血会場周辺企業、ロータリークラブ、法人会	15社・団体
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	規模縮小等で献血実施が困難な状況になった企業及び、新規団体で従業員数の問題等で献血会場としては難しい企業	100社・団体
3	新規団体の協力依頼	ロータリークラブ、ライオンズクラブ、法人会等の団体	10社・団体
4	成分献血協力団体の拡大	既献血団体及び小人数の企業・団体	10社・団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	メールからの予約500人以上
2	県職員献血協力者登録者名簿の活用 市・町職員献血協力者名簿の活用	県職員献血協力者名簿提出者に依頼 市・町職員献血協力者名簿提出者に依頼	年間1,000人以上
3	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	年間2,400人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	献血会場推進資材の活用(広報用テープ・必要本数たて看板)	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	高校生卒業記念献血キャンペーン及び学内高校献血受入れ	400mL献血可能者	3校
4	へモQ導入(H18. 8月～試験的に一部の会場にて実施中)	特に400mL献血可能な女性を対象とする	全献血会場:400mL献血目標に対し2%増が可能 ※平成19年度400mL献血目標(33,240人+2%)

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	電話による献血依頼	既血小板成分献血者	4人/日を目標で年間1,400人
2	献血協力団体に定期的に依頼	成分献血献血者	30団体で年間1,200人
3	キャンペーンを実施	既血小板成分献血者	キャンペーン等により200人血小板成分献血者確保

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

徳島赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	夏休み親子血液ゼミナール	小学生4～6年生と保護者	2回開催(100名)
2	学内献血・パネル展	大学生・専門学校生	各大学等で10回開催(参加者1,000人)
3	若年層献血キャンペーン(月間)	10～20代の若者	2期間開催(400名)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の開拓	献血未実施事業所及び献血会場周辺企業の開拓	20社新規開拓
2	血小板成分献血協力企業・団体の拡大	概献血団体及び少人数企業・団体	20社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	推進用チラシの作成と配布	献血者及び一般	応諾者500人以上
2	未加入献血者へのDMの発送	固定施設利用者の未加入者	応諾者200人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる。)
2	血液センター玄関に電光掲示板の設置	一般通行人	血液センターでの献血者数の増加(昨年比5%増)
3	市町村巡回時の400mL献血協力者へのDMの送付	市町村巡回先の前回・前々回の400mL献血協力者	献血者数の増加(前年比5%増)

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

香川県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	高校生街頭キャンペーン	高校生	年2回 40名
2	施設見学	小中学校生	年10回 200名
3	はがき・電話による献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者 13,000名以上
4	セミナー開催	大学・専門学校	年4回 400名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	保健所・市町との連携	献血会場周辺企業と自治会等	地域献血での1稼動50人
2	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業・団体	協力団体50社(団体)
3	休眠企業の掘り起こし	数年間、献血未実施企業・団体	協力団体50社(団体)

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)200人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数増加	年1回実施場所(企業・団体)	12カ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがき・電話による依頼	400mL献血可能者	移動採血車の献血実施場所における前回献血者
3	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時期等の精査	年3回以上実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定

⑤その他の具体的対策(①~④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	平日の献血者確保	全献血者	15人/週を目標に年間800人を確保する。
2	次回の予約推進	血小板成分献血者	2人/日为目标に年間700人を確保する。
3	電話による献血依頼	既血小板成分献血者	2人/日为目标に年間700人を確保する。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

愛媛県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	専門学校・大学校内献血実施の増加	学生	大学5校年3回。専門学校年2回実施
2	若年者献血キャンペーン(学生赤十字奉仕団による街頭献血)	街頭献血現場の若者	年7回程度実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	青年会議所の団体献血	青年会議所会員	県内10会議所の年2回実施
2	成分献血協力団体の拡大	既献血団体及びルーム近くの小企業	10社程度

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ(リピートあいピー)会員	応諾者数1,000人以上
2	はがきによる献血依頼	事業所・街頭における前回・前々回献血協力者に対し献血協力依頼	応諾者数2,000人以上
3	固定施設における成分献血者へ複数回献血クラブへの登録の推進	献血ルームでの成分献血者	年間500人の登録

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	200mL献血は必要本数のみルームで採血	全血献血者	200mL献血率3%

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	ポイント制度の導入	毎週月曜日から金曜日の成分献血者	4人/日増加をはかり、年間1,000名以上

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

高知県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数4,000人以上
2	セミナー開催	短大・大学生	4回開催 参加200人
3	若年者イベント献血	18～22歳の若者	参加300人以上、期間中の10・20代献血者 構成比35%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	献血協力企業・団体の見直し	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規も含め10社登録
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	定期献血は困難であるが、緊急時に要請する団体	動員協力2団体
3	成分献血協力団体の拡大	献血ルーム周辺の少人数の事業所	5事業所増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)40人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)2,000人以上
3	実施場所の年間回数の増加	年1回実施場所	5カ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に持参
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所の年間回数、実施時期等の精査	年3回以上実施場所	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮 した献血日程の策定
4	高校献血における400mL献血受入	400mL献血可能者	1校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	次回の予約推進	血小板成分献血者	2人/日を目標に724人を確保する。
2	電話による献血依頼	既血小板成分献血者	2人/日を目標に724人を確保する。
3	午前中の献血者確保	全献血者	午前中の平均受付数10人を15人まで増加する。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

福岡県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者59,000人以上
2	若年献血者確保キャンペーン("友達紹介キャンペーン")	新規の18~23歳の400mL献血協力者	1,000人以上確保
3	学生献血推進協議会加盟促進	管内の大学・専門学校	5校
4	ルーム近隣の専門学校への推進	専門学校生	30名/月を目標。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業	50社新規登録
2	動員協力団体の確保	ライオンズクラブ等で献血未実施の団体(1団体150人の実績確保)	20団体
3	年間計画の増加	現行登録団体	現在の年間協力回数を各団体1回増加する。
4	新規協力団体の確保	ルーム近隣の事業所及びビル等	年間10社以上の新規確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員(血小板)	要請者延数2,000人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(血小板)	要請者延数30,000人以上
3	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(400mL)	要請者延数1,000人以上(冬季不足対策)
4	講演会の開催	複数回献血クラブ会員及び新規登録者	年1回

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規400mL献血確保	献血会場来場者で400mL献血可能者	全会場

⑤その他の具体的対策(①~④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	ルーム店頭での献血呼びかけ	当該入居施設来場者	2人/日(年間700名)を目標。(各固定施設)
2	次回献血の予約	血小板成分献血者	2人/日(年間700名)を目標。(各固定施設)

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

佐賀県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
	看護学校、高校生の施設見学と献血の体験	18歳以上の400mL・成分献血可能者	5回開催 参加者200人
	セミナー開催	短大・大学生	10回開催 参加者1,200人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
	ロゴマーク	献血協賛企業	3社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)390人以上
2	はがきによる献血要請	複数回献血クラブ、アドレス無しの会員	応諾者数(実協力者数)100人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	献血受付時、推進用資材の作成	400mL献血可能者	献血会場に設置
2	はがきによる献血要請	採血間隔が一年以上で400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる
3	高校献血(卒業献血)	400mL献血可能者	5校以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	市町成分献血の日	全市町(特に職員)血小板成分献血の可能者	市町職員150名以上
2	新聞・チラシ折込(直前アピール)	全市町400mL献血の推進	各会場5～10人の400mL献血増

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

長崎県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	献血者確保キャンペーンの実施	一般及び若年層	年間5回以上のキャンペーンを実施する
2	学生ボランティア研修会の実施	短大、大学生	センター主催で年1回、九州ブロック主催で年3回実施する
3	血液センター見学会の実施	PTA、高等学校	年間2回以上実施、合計参加100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規事業所及び掘起し団体の開拓	献血未実施及び献血会場周辺事業所、数年献血を実施していない事業所	月間5社以上の開拓を目標とする

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールとはがきによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数100人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数3,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血経験者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
2	受付時推進資材の作製	全血献血希望者	移動採血会場に設置
3	事業所等における400mL限定献血の実施	400mL献血可能者	400mL献血率を90%以上とする
4	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	6校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	「1,000人献血」キャンペーン	一般及び事業所	2月に3日間実施
2	ライオンズクラブ主催献血	一般及びライオンズクラブ会員、関係者	年間3回以上実施

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

熊本県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
	成人式での献血推進用パンフレット配布	成人式参加者	22,000人
	学内献血キャンペーン	短大・大学・専門学校生	参加2,500人以上、期間中の10、20代献血者構成比35%以上
	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL・血小板成分献血可能者	協力者数500人以上
	ONE STEP イベント	大学生・高校生	大学生主催による高校生への献血セミナーの実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
	広報資材(広報誌)の活用	献血協力企業及び団体	全献血会場及び団体へ年4回の配布
	新規事業所及び団体の実施	新規事業所及び団体	年間10社(10団体)程度の確保
	緊急要請可能な事業所の確保	通常時に1稼働70名以上見込める事業所	20社程度
	ロゴマークの配布	献血協力企業及び団体	提供事業所を50社にする。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
	はがきによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人以上
	複数回献血キャンペーンの実施	400mL・血小板成分献血者	3,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
	高校献血における400mL献血の推進	18歳、50kg以上の高校生	6校実施

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
	200mL献血の抑制	固定施設及び移動採血車	需要に応じた採血、月間200名程度に抑制

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

大分県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数7,500人以上
2	高校献血への増車	18歳以上の400mL献血可能者	協力者数300人以上
3	セミナー等の開催	学生(高校・大学・専門学校等)	6回開催 参加400人
4	ニュードナーキャンペーン	18歳の高校生で初めて400mLや成分献血者	3月の期間中で500人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体等の確保	献血未実施企業	15社新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)100人以上
2	はがきによる献血要請	献血(期間)可能者	応諾者数(実協力者数)200人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる
3	高校献血における400mL献血受入れ	高校生・教職員その他400mL献血可能者	15校
4	実施場所(企業・団体)の年間回数・実施時期等の精査	年間に3回実施可能な企業や団体	400mL献血の採血間隔・年間採血量を考慮した献血日程の策定

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	電話、はがきによる献血依頼	成分献血登録者、複数回献血クラブ会員	一日4人を目標に年間1,400人増で19年度目標11,770人を確保する。
2	午前中の血小板成分献血者確保(成分献血記念プラスワンキャンペーン)	血小板成分献血者	
3	新規成分献血者確保(新規成分献血キャンペーン)	全血献血者・初回献血者	

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

宮崎県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数13,800人以上
2	若年者献血キャンペーン(サマー献血キャンペーン)	18～22歳の若者	協力者数200人以上、期間中の10～20代献血者構成比32%
3	(高校・大学・専門学校)における学内献血の推進	18～22歳の若者	学内献血実施を10箇所増加

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	新規開拓企業・団体20社
2	成分献血協力団体の拡大	既献血団体及び少人数の企業・団体	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)100人以上
2	はがきによる献血依頼	400mL献血・成分献血可能者	複数回協力者数8,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時期等の精査	年間3回以上実施場所(企業、団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の決定

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	成分献血協力事業所の推進強化	成分献血協力事業所	140事業所

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

鹿児島県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	九州ブロック学生献血推進サミット(H19年本県が開催県)の開催	短大・大学・専門学校生	1回開催 参加者500人(一般含む)
2	学生献血推進セミナーの開催	短大・大学・専門学校生	2回開催 参加者100人
3	高等学校で18歳を対象とした献血推進の開拓	高校3年生及び教職員	5校新規開拓

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業、団体の確保	特に鹿児島市における未実施企業、団体	新規に15(社)団体
2	献血協賛企業、団体の推進活動	現状の献血団体に対し、普及活動を行う	575社
3	固定施設における事業所献血の拡大	血液センター及び献血ルーム周辺事業所	10(社)団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数) 300人以上
2	はがきによる献血要請	前回献血から一定期間空きの献血者	応諾者数(実協力者数) 1,000人以上
3	電話による献血要請	前回献血から一定期間空きの献血者	応諾者数(実協力者数) 1,000人以上
4	献血1稼動あたりの献血者数の増	前回献血から一定期間空きの献血者	1稼動あたり5人増加

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	学内献血の強化	大学、専門学校生	学内献血の底上げ 3校
3	献血団体育成講習会の実施	県内各事業所	鹿児島市ほか2回
4	電話による依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	移動採血の効率的な献血者確保	移動採血における400mL献血可能者	1稼動あたり41人(400mLのみ)

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

沖縄県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	セミナーの開催及び宿泊研修	高等学校・大学・ライオンズクラブ	セミナー15回、1,000人以上
2	はがきによる献血依頼	18～29才までの400mL献血可能者	応諾者3,000人以上
3	若年者献血キャンペーン	18～29才までの若者	はたちの献血キャンペーン中の10～20代の献血者を構成比の40%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	献血協力企業・団体の確保	年1回の献血協力企業及び団体の年2回献血の実施	650社
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	運転免許試験場・大型スーパー	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	献血団体、個人に対し前回採血から一定期間未経験者	応諾者数4,000名以上
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数100名以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	団体・企業推進時のパンフレットの製作	献血予定者	推進時に持参
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	複数回献血者確保対策に含まれる
3	団体・企業の年間回数・実施時期の精査	年3回の企業・団体	採血間隔・年間採血量を考慮した日程の策定
4	高校における400mL献血推進	400mL献血可能者	19校